

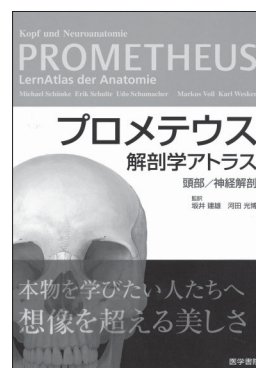


坂井 建雄, 河田 光博●監訳

『プロメテウス解剖学アトラス 頭部／神経解剖』

書評者

小林 靖（防衛医大教授・解剖学）



『プロメテウス解剖学アトラス』第3巻の日本語版がついに刊行された。第1巻を初めて目にしたときの驚きが、第2巻、第3巻と手に取って開くたびに新たによみがえる思いがする。

『プロメテウス解剖学アトラス』の極めて強い第1印象がその肉眼解剖の精細な図版によるものであることは、多くの評者の指摘しているところである。コンピュータを駆使して作成されたと聞くが、決してこれまでに多くみられたような、単純化された模式的なものではない。実物を詳しく観察した者誰もが納得する、緻密なテクスチャを再現した図は、従来の図譜になかったリアルさを感じさせる。リアルであるという点は写真のほうが有利だと思うが、焦点深度に限界のある写真と異なり、本書の図はすべてにピントが合っており、描かれている構造のすみずみまで行きわたった細密な描写に圧倒される。それにもかかわらず、正確な陰影の描き方によって、絵の図譜にありがちな平面的な表現とも無縁である。この奥行き表現は、

構造の立体的な理解を容易にする。これは解剖学のみならず臨床各科においても、実地に本書を利用する読者にとって大きな利点であろう。

第3巻の頭部のセクションは、こうした『プロメテウス解剖学アトラス』の本領が遺憾なく発揮されており、複雑な3次元的配置をとる頭部の各構造を明快にとらえることができる。例えば側頭下窩における顎動脈・神経・筋の位置関係を示した図をご覧いただきたい。これらの図版の数々は、解剖実習室において剖出半ばで途方に暮れる学生にとって力強い援軍と言っている。

本書の次に重要な特徴は、概念の理解を助ける的確な模式図である。これは神経系を扱う際にとりわけ有意義である。外観上似たり寄ったりの神経組織が、部位によってさまざまな異なる機能を担っていることは、適切な伝導路の概念図と解説がなければ初学者にとって極めて理解しづらい。本書はこの点で従来のアトラスとは大きく趣を異にしている。神経系の機能を学ぶ際

にも大いに役立つだろう。

さらに挙げておきたいのは、末梢神経の記述の豊富さである。これまでの神経解剖学の教科書は、多くの場合中枢の記述に偏りすぎていて、中枢と末梢を通した伝導路の理解に適さないものも見受けられた。本書はアトラスと名乗ってはいるが、上記の伝導路の概念図や解説が末梢神経に関しても充実している。末梢器官の細密な表現と相まって、神経系が標的器官・末梢神経系・中枢神経系を通した伝導路からなるシステムであることを、おのずと理解することができるだろう。

こうした優れた特徴を備えたアトラスが日本語で利用できることは、とりわけ初学者にとって大きな福音である。正確な翻訳を完成された訳者と監訳者の労に敬意を表したい。

A4変型 頁432 2009年 医学書院刊
定価 11,550円（本体11,000円＋税5%）
[ISBN978-4-260-00603-3]